

CDMOS 形リニア集積回路 シリコン モノリシック

# TCB001FNG

最大出力 45 W BTL × 4ch 低周波電力増幅用 IC

## 1. 概要

TCB001FNG は、カーオーディオ用に開発された 4 チャンネル BTL アンプ内蔵パワー IC です。出力段は DMOS を採用し、上側 P-ch、下側 N-ch のピュアコンプリメンタリ構成により、最大出力電力  $P_{OUT} = 45 \text{ W}$  を実現しています。

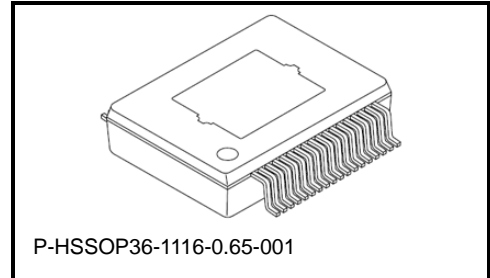
また、カーオーディオに必要な、スタンバイスイッチ、ミュート機能、各種保護回路を内蔵しています。

## 2. 用途

カーオーディオ用パワー IC

## 3. 特長

- 高出力、低歪率、低雑音特性を実現(詳細は、表 3-1 代表特性表参照)
- 各種ミュート機能内蔵(減電圧時、スタンバイ ON / OFF 時)
- スタンバイスイッチ内蔵 (22 ピン)
- ミュートスイッチ内蔵 (33 ピン)
- 各種検出機能内蔵(出力オフセット検出、出力ショート検出、過電圧検出)(29 ピン)
- 6 V クルー징動作対応(アイドリングストップ時瞬減対応)
- 各種保護回路内蔵(熱遮断、過電圧、天絡、地絡、負荷短絡、スピーカ焼損防止機能内蔵)



P-HSSOP36-1116-0.65-001

質量: 1.28 g (標準)

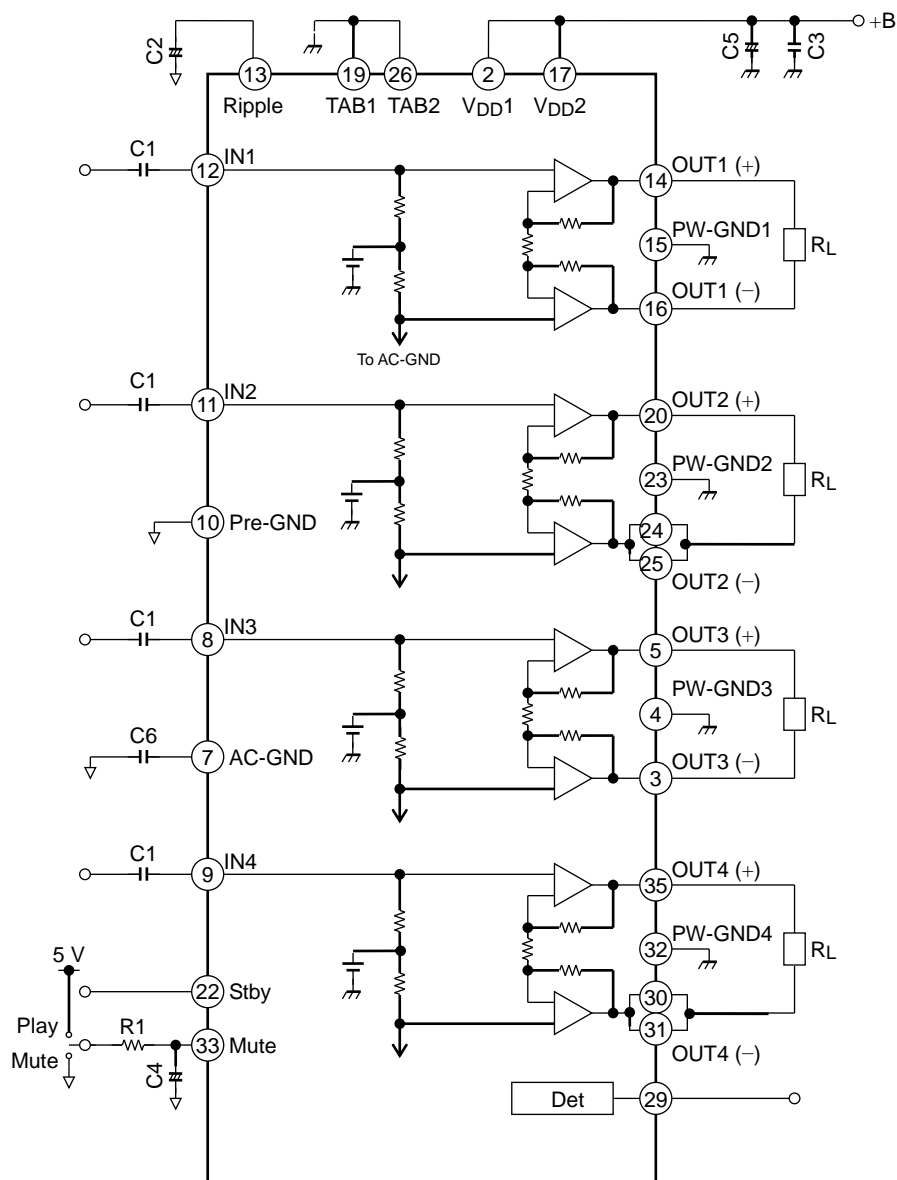
表 3.1 代表特性表

(標準測定条件: 特に規定しない限り  $V_{DD} = 13.2 \text{ V}$ ,  $f = 1 \text{ kHz}$ ,  $R_L = 4 \Omega$ ,  $G_V = 26 \text{ dB}$ ,  $T_a = 25^\circ\text{C}$ )

測定条件	標準	単位
出力電力( $P_{OUT}$ )		
$V_{DD} = 15.2 \text{ V}$ , JEITA max	45	W
$V_{DD} = 14.4 \text{ V}$ , JEITA max	40	
$V_{DD} = 14.4 \text{ V}$ , THD = 10%	26	
THD = 10%	22	
全高調波歪率(THD)		
$P_{OUT} = 4 \text{ W}$	0.01	%
出力雑音電圧 ( $V_{NO}$ ) ( $R_g = 0 \Omega$ )(注)		
BW = 20 Hz~20 kHz	45	$\mu\text{V}$
動作電源電圧範囲( $V_{DD}$ )		
$R_L = 4 \Omega$	6~18	V

注:  $R_g$ : 信号源抵抗

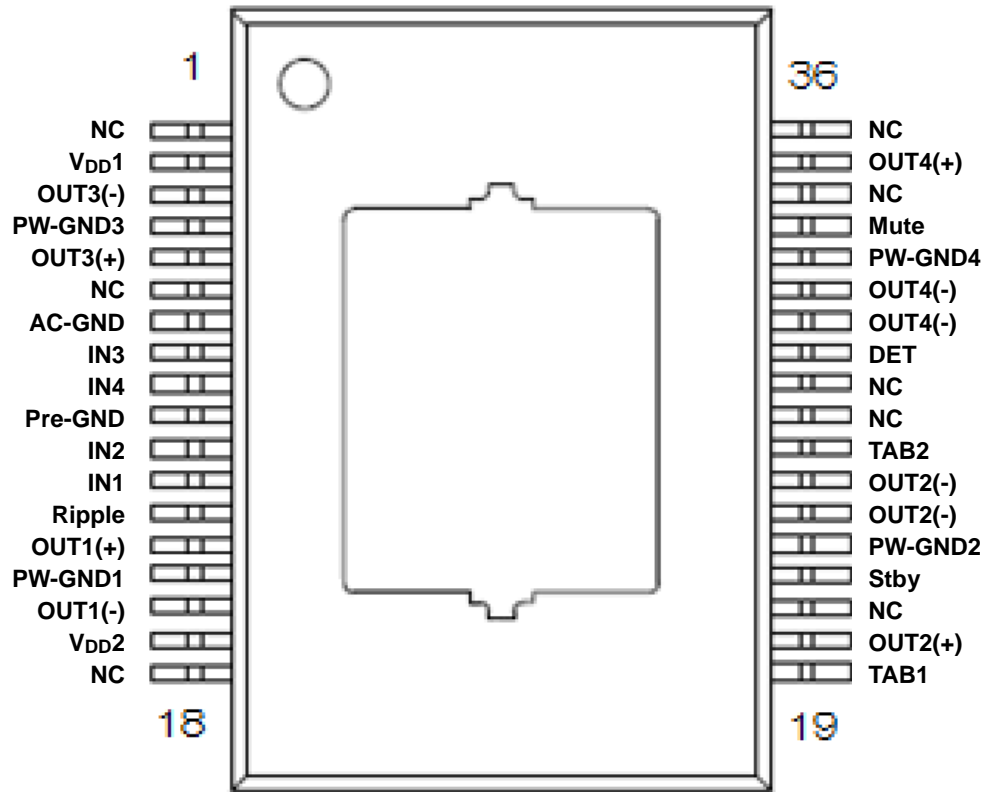
### 4. ブロック図



ブロック図内の機能ブロック/回路/定数などは、機能を説明するため、一部省略・簡略化している場合があります。

注: チャンネルは、IN $x$ , OUT $x$ (+), OUT $x$ (-), PW-GND $x$ を一組とした回路です。(x: 1~4)

## 5. 端子配置図 (Top View)



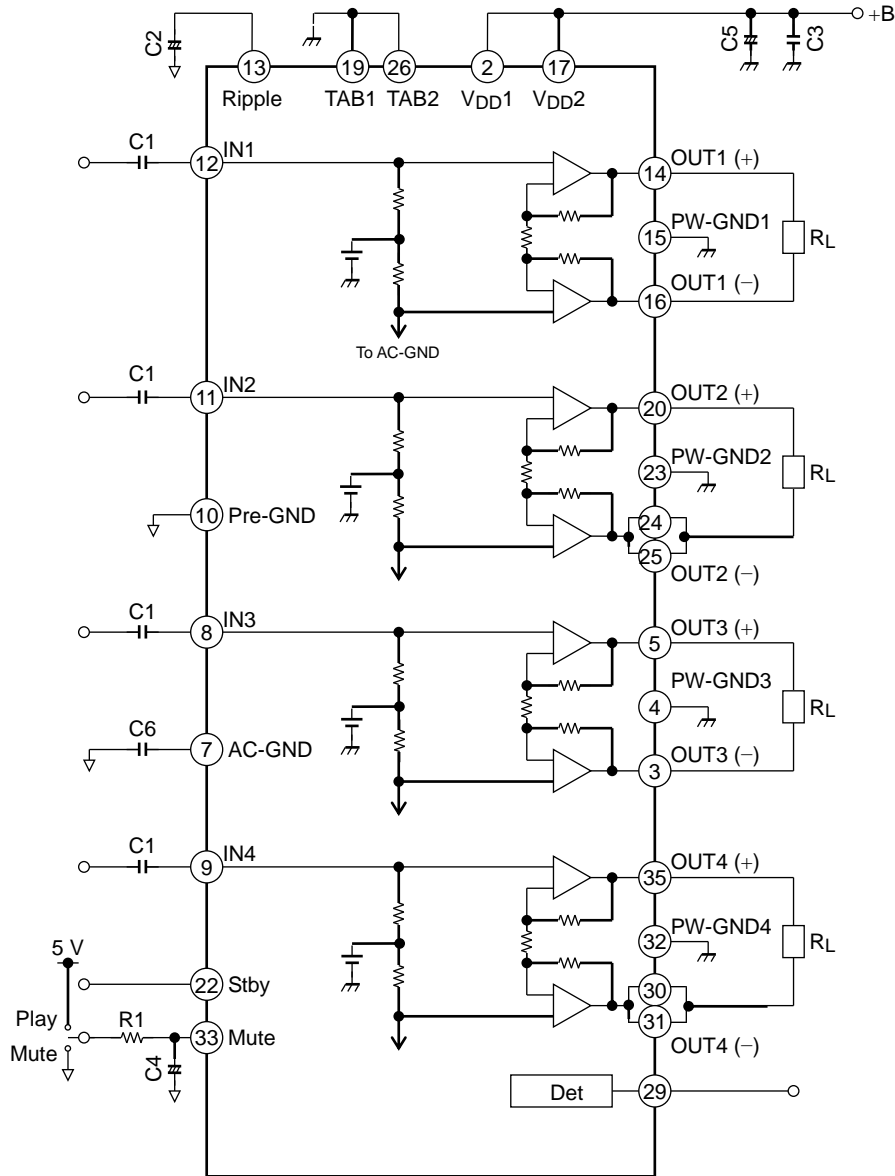
## 6. 端子説明

端子番号	端子名称	入出力	端子説明
1	NC	—	—
2	VDD1	VDD-IN	電源端子 1
3	OUT3(-)	OUT	3ch (-) 出力端子
4	PW-GND3	—	3ch GND 端子
5	OUT3(+)	OUT	3ch (+) 出力端子
6	NC	—	—
7	AC-GND	—	全入力アンプ共通の基準電圧源端子
8	IN3	IN	3ch 入力端子
9	IN4	IN	4ch 入力端子
10	Pre-GND	—	小信号用 GND 端子
11	IN2	IN	2ch 入力端子
12	IN1	IN	1ch 入力端子
13	Ripple	—	リップル電圧端子
14	OUT1(+)	OUT	1ch (+) 出力端子
15	PW-GND1	—	1ch GND 端子
16	OUT1(-)	OUT	1ch (-) 出力端子
17	VDD2	VDD-IN	電源端子 2
18	NC	—	—
19	TAB1	—	GND(TAB)端子
20	OUT2(+)	OUT	2ch (+) 出力端子
21	NC	—	—
22	Stby	VST-IN	スタンバイ電圧入力端子
23	PW-GND2	—	2ch GND 端子
24	OUT2(-)	OUT	2ch (-) 出力端子
25			
26	TAB2	—	GND(TAB)端子
27	NC	NC	—
28			
29	DET	OD (注)	出力オフセット/ショート/ 過電圧検出出力端子
30	OUT4(-)	OUT	4ch (-) 出力端子
31			
32	PW-GND4	—	4ch GND 端子
33	Mute	VmuteIN	ミュート電圧入力端子
34	NC	—	—
35	OUT4(+)	OUT	4ch (+) 出力端子
36	NC	—	—

注: OD は、Open Drain の略記

### 7. 動作説明

#### 7.1 外付け部品仕様



部品名	推奨値	接続端子	目的	影響 (注 1)	
				推奨値より小	推奨値より大
C1	0.22 $\mu$ F	INx(x:1~4)	直流阻止	カットオフ周波数高域に移動	カットオフ周波数低域に移動
C2	10 $\mu$ F	Ripple	リップル低減	立ち上がり時間 小	立ち上がり時間 大
C3	0.1 $\mu$ F	V <sub>DD1</sub> , V <sub>DD2</sub>	発振余裕度	ノイズの軽減、発振余裕度向上	
C4	1 $\mu$ F	Mute	ポップ音軽減 (注 2)	ポップ音 大 ミュート解除時間 小	ポップ音 小 ミュート解除時間 大
C5	3900 $\mu$ F	V <sub>DD1</sub> , V <sub>DD2</sub>	リップルフィルタ	電源ハム、リップルのフィルタ用	
C6	1 $\mu$ F	AC-GND	全入力アンプ共通の基準電圧源	C1:C6 = 1:4 の比でポップ音低減 (注 3)	
R1	47 k $\Omega$	Mute	ポップ音軽減	ポップ音 大 ミュート解除時間 小	ポップ音 小 ミュート解除時間 大

注 1: 推奨値以外で使用される場合は、実機評価で十分ご検討ください。

注 2: 本製品は AC-GND が全入力アンプ共通の基準電圧源端子となっているため、入力容量 C1 と AC-GND 容量 C6 の比を 1 : 4 にする必要があります。

注 3: C1 と C6 はリーク電流の少ないコンデンサを使用願います。

## 7.2 スタンバイスイッチ機能

22ピン (スタンバイ電圧入力端子) を High または Low に制御することによりパワーの ON/OFF 制御が可能です。22ピンのしきい値電圧は表7.1のとおりを設定されスタンバイ状態での電源電流は約 0.01  $\mu\text{A}$  (標準) となっています。

表 7.1 22ピンコントロール電圧( $V_{\text{stby}}$ )

Stby	Power	$V_{\text{Stby}}$ (V)
ON	OFF	0 ~ 0.8
OFF	ON	2.2 ~ $V_{\text{DD}}$

22ピンの時定数を変更する場合にはポップ音の確認をしてください。

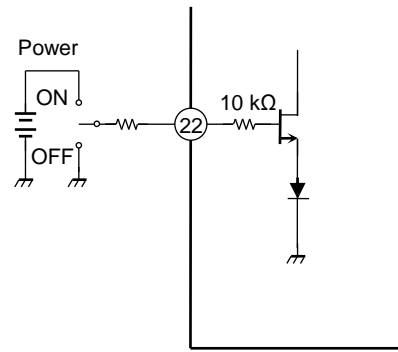


図 7.1 スタンバイ回路図

<スタンバイスイッチのメリット>

- (1) マイコンからダイレクトに  $V_{\text{DD}}$  → ON、OFF を制御可能であり、スイッチングリレーを省くことができます。
- (2) 制御電流が微小なため、小電流容量のスイッチングリレーで制御が可能です。

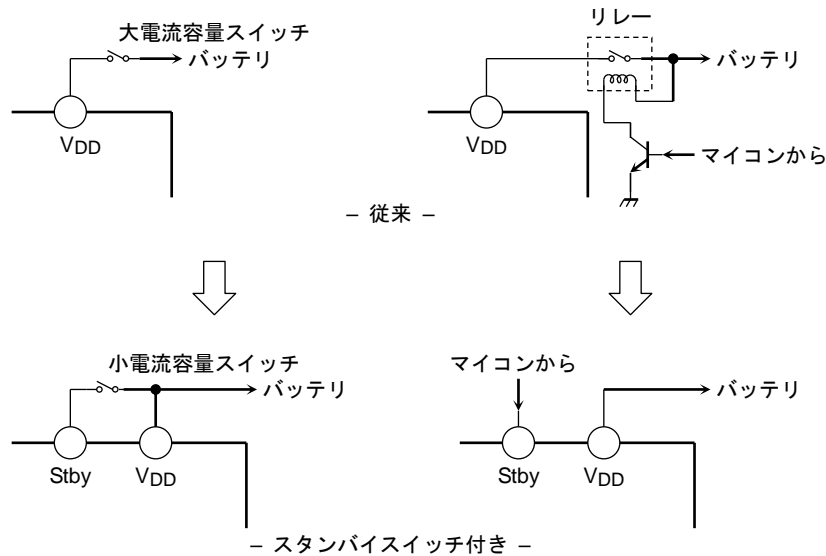


図 7.2 スタンバイスイッチ

### 7.3 ミュートスイッチ機能

33ピン(ミュート電圧入力端子)を Low にすることでオーディオミュートが可能です。ミュートの時定数はR1とC4の時定数によって決まります。なお、この時定数はパワーON/OFFおよびミュートON/OFF時ポップ音にも影響致しますので、定数を変更される場合は十分ご検討の上定数を選定してください。本端子は5Vでのコントロールを想定して設計しています。5V以外の電圧でご使用される場合は、下記計算式を参考の上、R1の定数を設定してください。

例: コントロール電圧を 5V → 3.3Vへ変更する場合  

$$3.3\text{ V}/5\text{ V} \times 47\text{ k}\Omega = 31\text{ k}\Omega$$

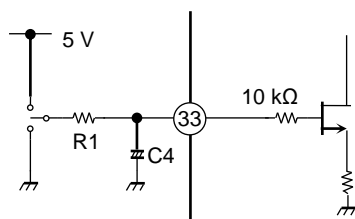


図 7.3 ミュート機能

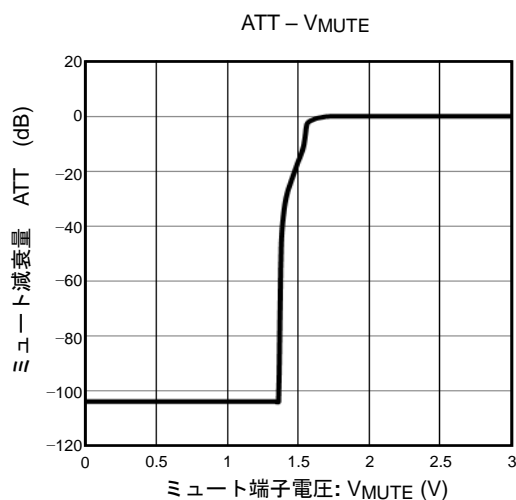


図 7.4 ミュート減衰量 - VMUTE (V)

## 7.4 自動ミュート機能

本製品の自動的に作動するミュート機能は、減電圧時ミュート機能とスタンバイ OFF 時ミュート機能の 2 通りあります。

### 7.4.1 減電圧時ミュート機能

減電圧時ミュートは、電源電圧が 5.5 V(標準)以下に低下した際に自動的に作動するミュート機能です。電源電圧がさらに低下し異音が発生することを防ぎます。

### 7.4.2 スタンバイ OFF 時ミュート機能

スタンバイ OFF 時ミュート機能はスタンバイ OFF し、ある一定時間内部でミュートをかける機能です。本ミュート機能はリップル端子が充電され  $V_{\text{ripple}} \geq 1/4V_{\text{DD}}$  の条件を満たした時点でミュートが解除されます。

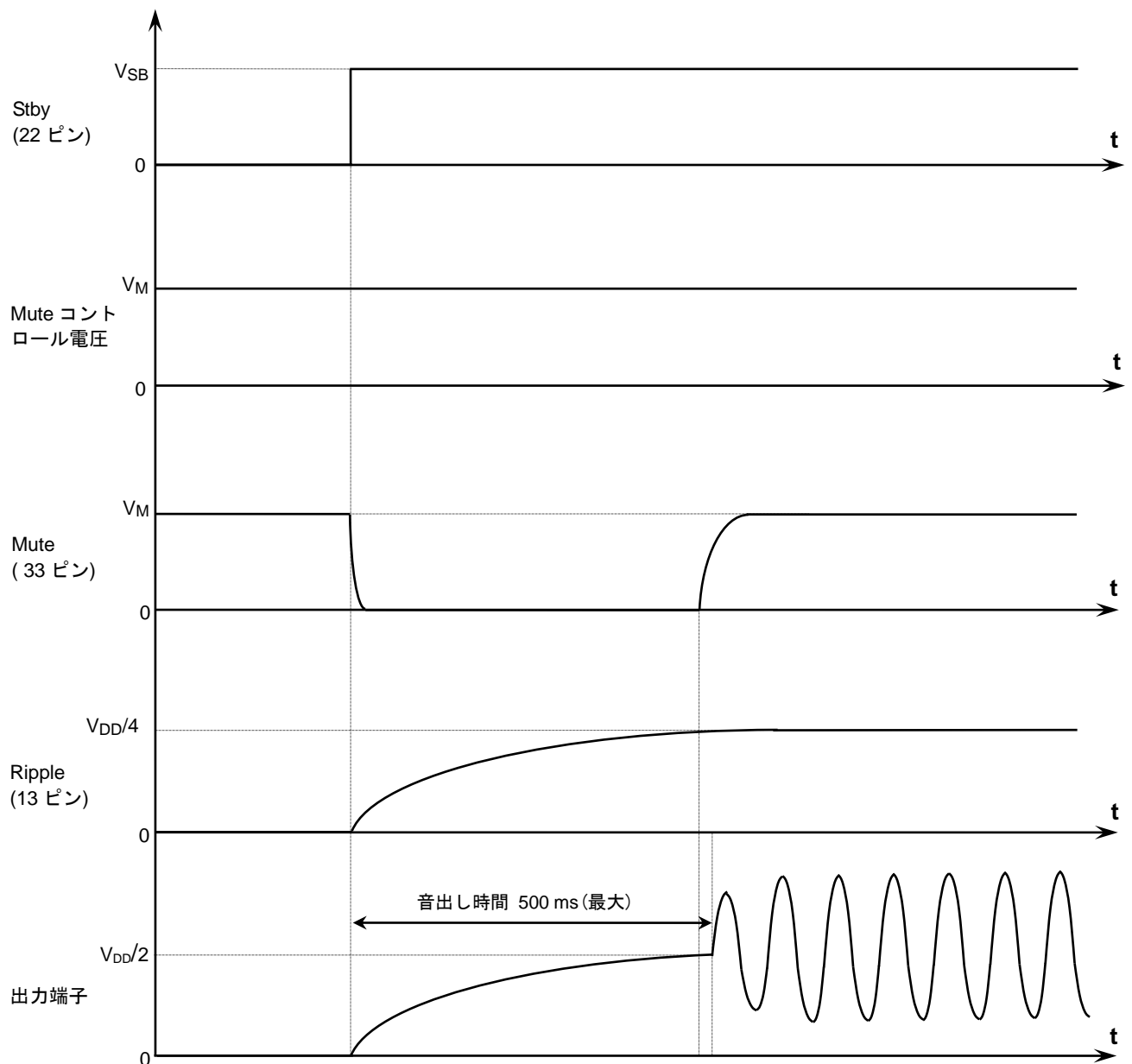


図 7.5 スタンバイ OFF 時のシーケンス

### 7.4.3 スタンバイ OFF 後のミュート解除

スタンバイ OFF 後リップルコンデンサ、入力、AC-GND の充電が十分に完了する前にミュート OFF するとポップ音が発生します。ポップ音対策として充電時間を考慮し、十分なマージンを持って出力中点電位が安定してからミュート解除を行うよう設定願います。

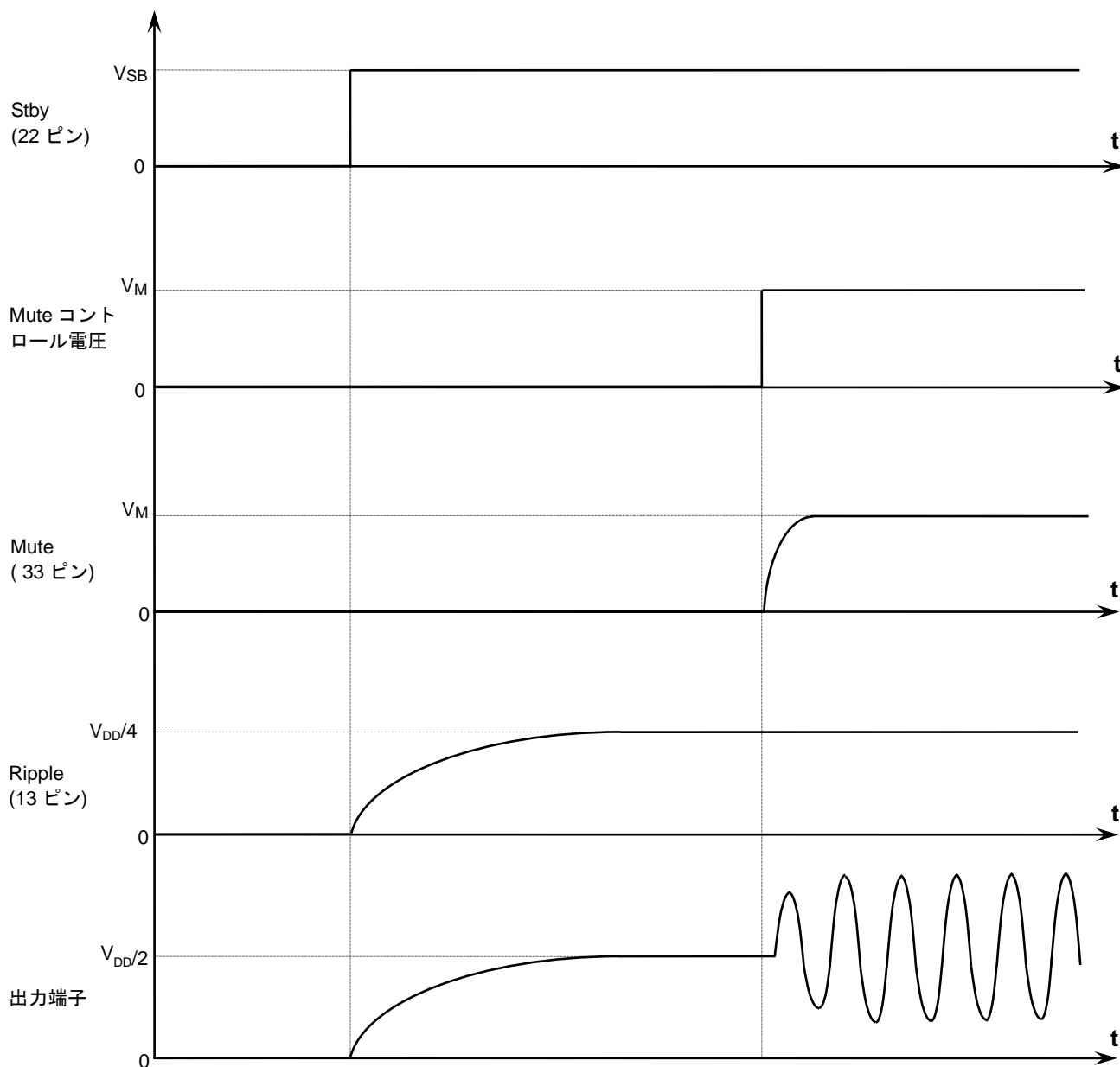


図 7.6 スタンバイ OFF 後のミュート解除シーケンス

## 7.5 自己診断検出機能 (DET 端子)

自己診断機能は、本 IC 周辺回路のさまざまな異常状態を検出し IC 内部の MOS トランジスタを ON させることで IC 外部にその状態を知らせます。この機能を利用してパワー IC だけでなく機器全体の保護システムが実現でき、信頼性の高いセット設計が可能となります。本機能を使用しない場合、29 ピン (DET 端子) をオープンでご使用願います。

### 7.5.1 DC オフセット検出機能

本機能はアンプ出力に発生するオフセット電圧が規定するしきい値を超えたときに 29 ピンを使って、オフセット電圧の有無を知らせる機能です。

入力コンデンサのリークなどにより出力に異常オフセット電圧が発生した際、その異常状態を回路にフィードバックします。安全処置を行うために、本機能はその構成機能の一部「(a)オフセット電圧検出」として使用可能です。

(a)オフセット電圧検出 → (b)正常/異常判断 → (c)安全処置(スタンバイ ON やミュート ON など)

なお、オフセット電圧の検出自体は、そのオフセット電圧が異常であるか否かにかかわらず、仕様で定められたしきい値に出力電圧が達したところで検出します。

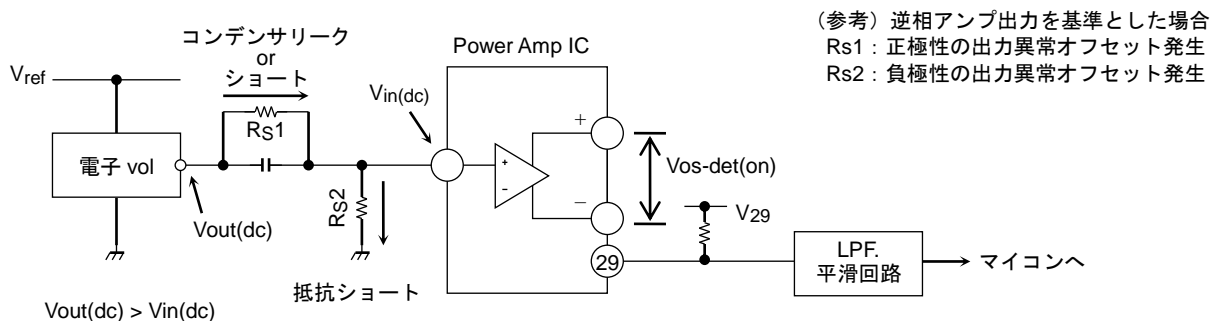


図 7.7 異常時出力オフセット電圧の発生メカニズム

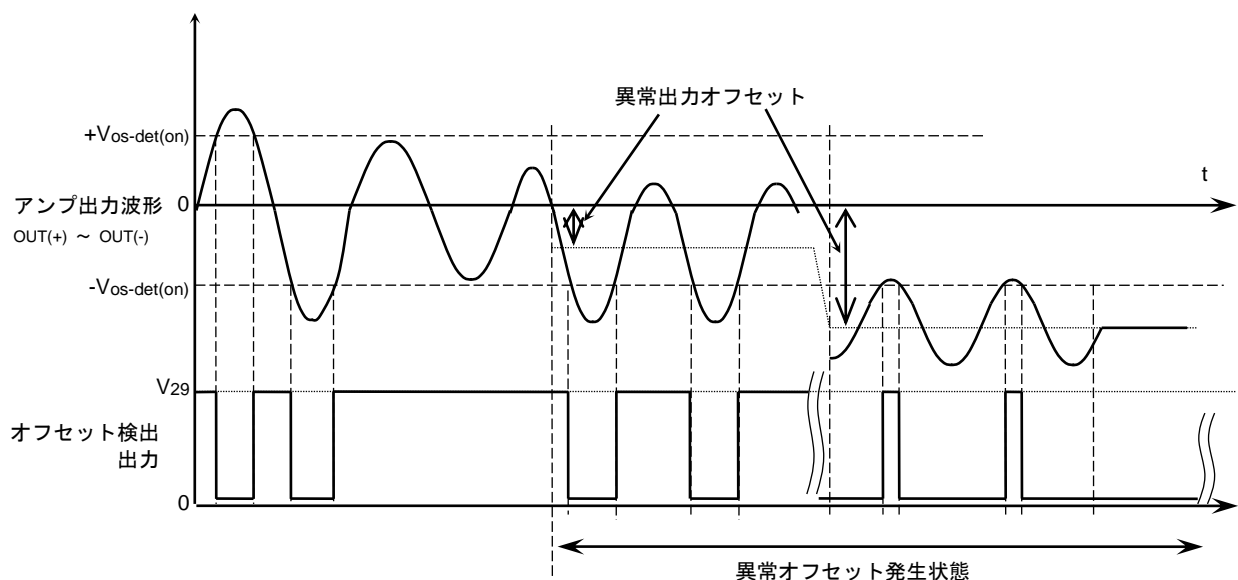


図 7.8 29 ピン出力波形

## 7.5.2 出力ショート検出機能

出力ショート検出は、OUT 端子が天絡または地絡などしたとき、電源電圧端子に過電圧 23 V(標準)以上印加されたときに MOS トランジスタが ON し検出することが可能です。(図 7.10 を参照)  
 また、負荷短絡時に、MOS トランジスタが、出力信号に応じて ON/OFF を繰り返します。(図 7.11 を参照)なお、 $I_o=500 \mu\text{A}$  以下になるようにプルアップ抵抗をご設定ください。

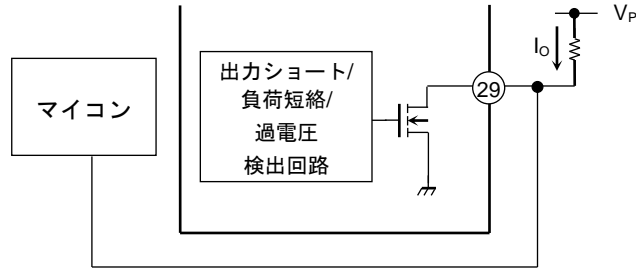


図 7.9 出力ショート検出機能の発生メカニズム

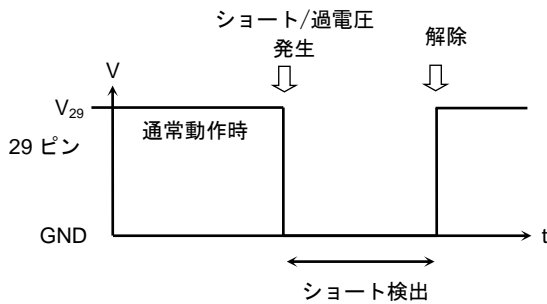


図 7.10 29 ピン出力波形

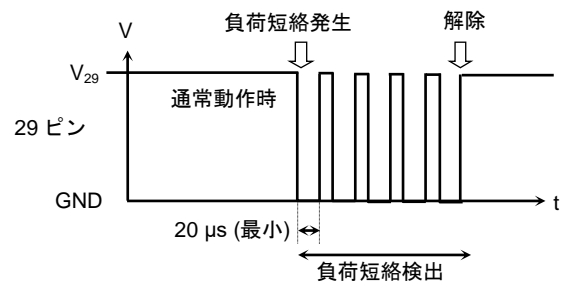


図 7.11 負荷短絡時 29 ピン出力波形

## 7.6 電源電圧( $V_{DD}$ )低下に伴う音切れポップ音の軽減機能

本製品は電源電圧( $V_{DD}$ )が低下した際に、音切れやポップ音を軽減するアンプ回路を採用しています。

本機能は、瞬時減電圧時に中点電位を  $1/4V_{DD}$  に切り換えることで、従来 IC で発生していた音切れやポップ音を軽減します。

## 7.7 保護機能

本製品は、保護回路として、熱遮断、過電圧保護、天絡保護、地絡保護、負荷短絡保護機能を内蔵しています。

### (1) 熱遮断

ジャンクション温度が  $150^{\circ}\text{C}$ (標準)を超えた場合に動作します。  
動作した場合、下記のような順番で保護されます。

1. 最初に出力の減衰が始まり、温度上昇に応じて減衰量も増加します。
2. 出力減衰しても温度が上昇し続けた場合は全出力ともミュート状態になります。
3. 全出力がミュート状態になってもさらに温度上昇が続く場合は、出力トランジスタを OFF します。

いずれの状態についても、温度が下がればその時点で自動復帰します。

### (2) 過電圧

電源  $V_{DD}$  に動作電源電圧を越える過電圧が印加された場合に動作します。電圧が下がれば自動復帰します。  
動作した場合、出力バイアスが OFF され、出力が遮断されます。

### (3) 天絡、地絡、負荷短絡

各出力が誤接続された場合に動作します。誤接続が解除されれば自動復帰します。  
動作した場合、出力バイアスが OFF され、出力が遮断されます。

### (4) スピーカ焼損防止

本製品は  $\text{OUT}(+) \sim \text{OUT}(-)$ 間の直流抵抗が約  $1\ \Omega$ 以下となり  $4\ \text{A}$ (標準)を超える過電流が流れようとしたときに、保護回路を動作させスピーカに流れ込む電流を抑えます。  
この機能は次のメカニズムで発生するスピーカ焼損事故の防止を可能にします。

#### <スピーカ焼損想定メカニズム>

パワーIC 周辺部品の不良などの異常状態によりスピーカ端子間に直流  $4\ \text{A}$ 以上が印加される(注)。  
(異常出力オフセット状態)  
↓  
(スピーカがレイヤショートを起こし)スピーカインピーダンスが  $1\ \Omega$ 以下に低下。  
↓  
この状態でさらに  $4\ \text{A}$ (標準)以上の電流が流れることでスピーカが焼損。

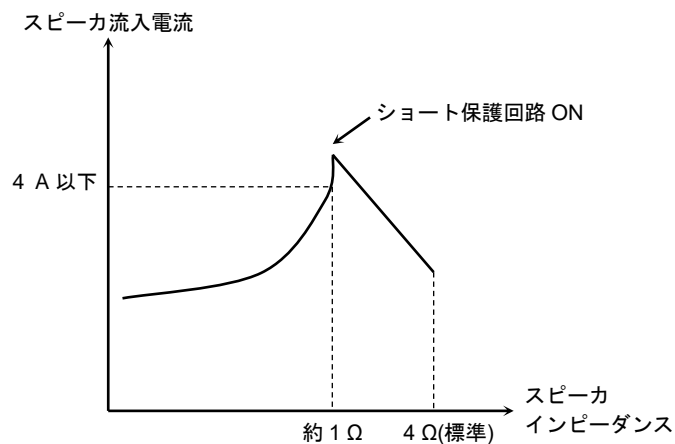


図 7.12 スピーカ燃失防止機能

注: 入力コンデンサまたは IN-隣接ライン間でのショートからのリーク電流により、パワーIC への入力バイアスが崩れる場合、異常 DC オフセット電圧が発生します。

### 8. 絶対最大定格

(特に規定しない限り、 $T_a = 25^\circ\text{C}$ )

項目	条件	記号	定格	単位
瞬時電源電圧	0.2 秒以内	$V_{DD}(\text{surge})$	50	V
静止電源電圧	—	$V_{DD}(\text{DC})$	30	V
動作電源電圧	—	$V_{DD}(\text{opr})$	18	V
ピーク出力電流	—	$I_O(\text{peak})$	9	A
消費電力	(注)	$P_D$	125	W
動作温度	—	$T_{opr}$	-40 ~ 105	$^\circ\text{C}$
保存/ジャンクション温度	—	$T_{stg}/T_j$	-55 ~ 150	$^\circ\text{C}$
GND 電位許容差	—	$GND_{max}$	-0.3 ~ 0.3	V
$V_{in}$ 最大電圧	—	$V_{inmax}$	-0.3 ~ 5.3	V
最大スタンバイ/ミュート印加電圧	—	$V_{STBmax}$	-0.3 ~ $V_{DD}+0.3$	V
AC-GND/リップル最大印加電圧	—	$V_{ACGmax}$	-0.3 ~ 5.3	V

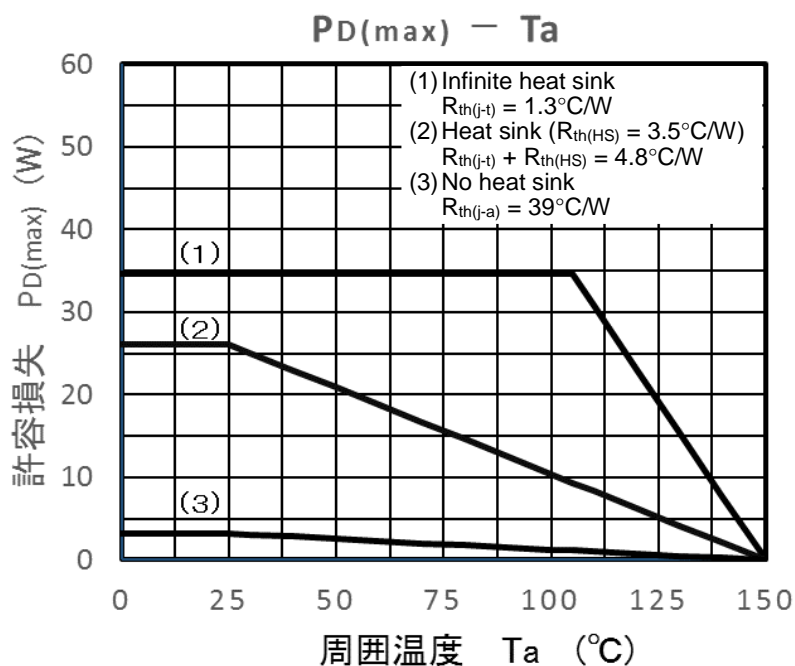
注:  $T_a = 25^\circ\text{C}$ 、無限大放熱板使用時のパッケージ熱抵抗 ( $R_{th(j-t)} = 1.3^\circ\text{C/W}$ (標準))

絶対最大定格は瞬時たりとも超えてはならない規格です。

絶対最大定格を超えると IC の破壊や劣化や損傷の原因となり、IC 以外にも破壊や損傷や劣化を与える恐れがあります。いかなる動作条件においても必ず絶対最大定格を超えないように設計を行ってください。

ご使用に際しては、記載された動作範囲内でご使用ください。

### 9. 許容損失特性



**10. 動作範囲**

項 目	記 号	条件	最小	標準	最大	単位
電源電圧	V <sub>DD</sub>	R <sub>L</sub> =4 Ω	6	—	18	V

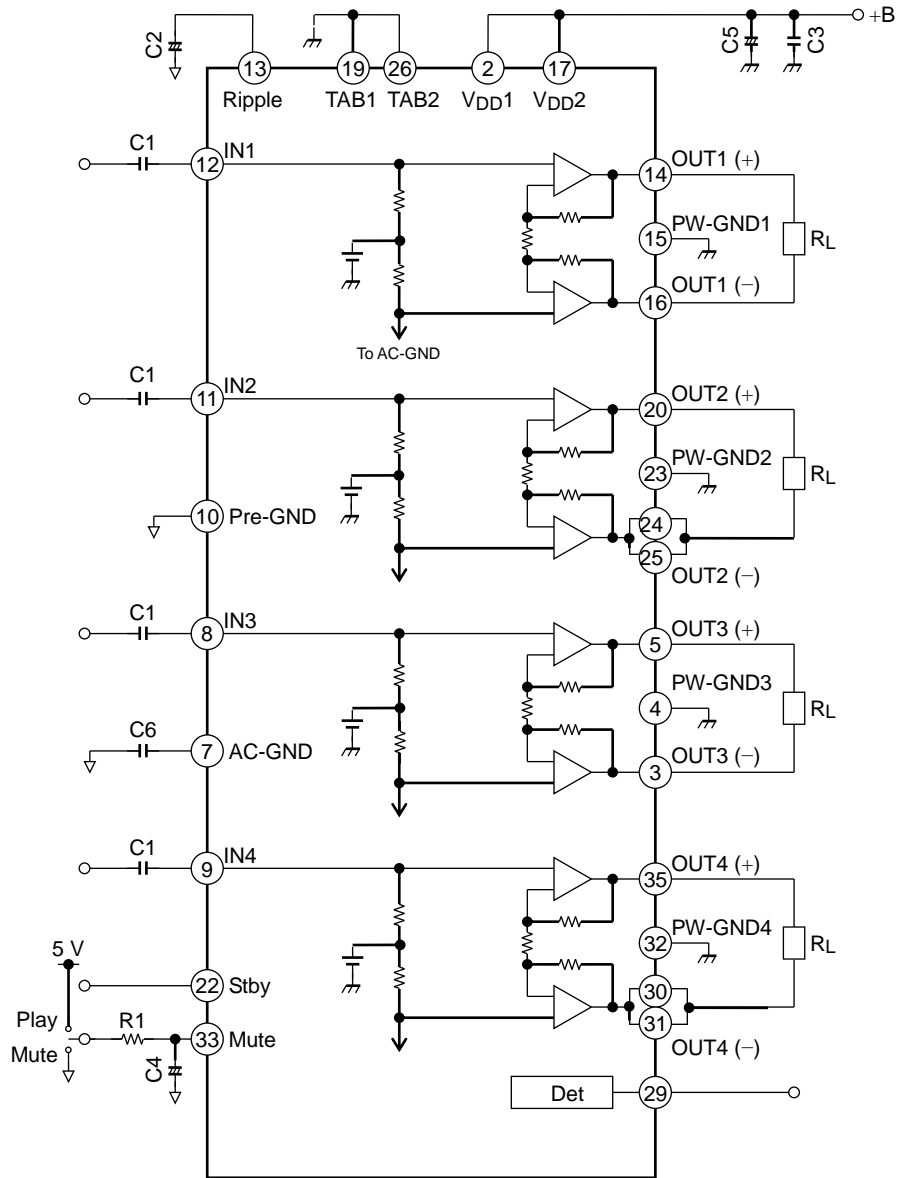
## 11. 電気的特性

(特に規定しない限り  $V_{DD} = 13.2 \text{ V}$ ,  $f = 1 \text{ kHz}$ ,  $R_L = 4 \Omega$ ,  $G_V = 26 \text{ dB}$ ,  $T_a = 25^\circ\text{C}$ )

項目	記号	測定条件	最小	標準	最大	単位
無信号時電源電流	I <sub>CCQ</sub>	V <sub>IN</sub> = 0 Vrms	—	200	300	mA
出力電力	POUT MAX (1)	V <sub>DD</sub> = 15.2 V, MAX POWER	—	45	—	W
	POUT MAX (2)	V <sub>DD</sub> = 14.4 V, MAX POWER	—	40	—	
	POUT (1)	V <sub>DD</sub> = 14.4 V, THD = 10%	—	26	—	
	POUT (2)	THD = 10%	—	22	—	
全高調波歪率	THD	POUT = 4 W	—	0.01	0.07	%
電圧利得	G <sub>V</sub>	V <sub>OUT</sub> = 0.775 Vrms	25	26	27	dB
チャンネル間電圧利得	ΔG <sub>V</sub>	V <sub>OUT</sub> = 0.775 Vrms	-1.0	0	1.0	dB
出力雑音電圧	V <sub>NO</sub>	R <sub>g</sub> = 0 Ω, BW = 20 Hz~20 kHz	—	45	70	μVrms
リップル除去比	R.R.	f <sub>rip</sub> = 100 Hz, R <sub>g</sub> = 620 Ω V <sub>rip</sub> = 0.775 Vrms (注1)	50	70	—	dB
クロストーク	C.T.	R <sub>g</sub> = 620 Ω POUT = 4 W	—	80	—	dB
出力オフセット電圧	V <sub>OFFSET</sub>	—	-90	0	90	mV
入力抵抗	R <sub>IN</sub>	—	—	90	—	kΩ
スタンバイ電流	I <sub>STBY</sub>	スタンバイ状態, V <sub>4</sub> = 0, V <sub>22</sub> = 0	—	0.01	1	μA
スタンバイ電圧	V <sub>SB H</sub>	POWER: ON	2.2	—	V <sub>DD</sub>	V
	V <sub>SB L</sub>	POWER: OFF	0	—	0.8	
ミュート電圧	V <sub>M H</sub>	Mute: OFF	2.2	—	V <sub>DD</sub>	V
	V <sub>M L</sub>	Mute: ON, R <sub>1</sub> = 47 kΩ	0	—	0.8	
ミュート減衰量	ATT M	Mute: ON V <sub>OUT</sub> = 7.75 Vrms → Mute: OFF	85	100	—	dB
オフセット検出スレッシュホールド電圧	V <sub>off-set</sub>	I <sub>o</sub> = 500 μA, OUT(+) - OUT(-)	±1.0	±1.5	±2.0	V
各検出機能動作時電圧	P29-Det	I <sub>o</sub> = 500 μA, 検出時 (端子 29 = Low)	—	100	500	mV

注: V<sub>SBH</sub>、V<sub>MH</sub>、P29-Det は 18 V 以下でご使用ください。注 1: f<sub>rip</sub>: リップル周波数V<sub>rip</sub>: リップル信号電圧(V<sub>DD</sub> 電源に重畳)

## 12. 測定回路



注: 試験回路内の各部品は、デバイス特性の取得と確認のためにだけ使用されています。

13. 特性図 (参考)

13.1 出力電力に対する全高調波歪率

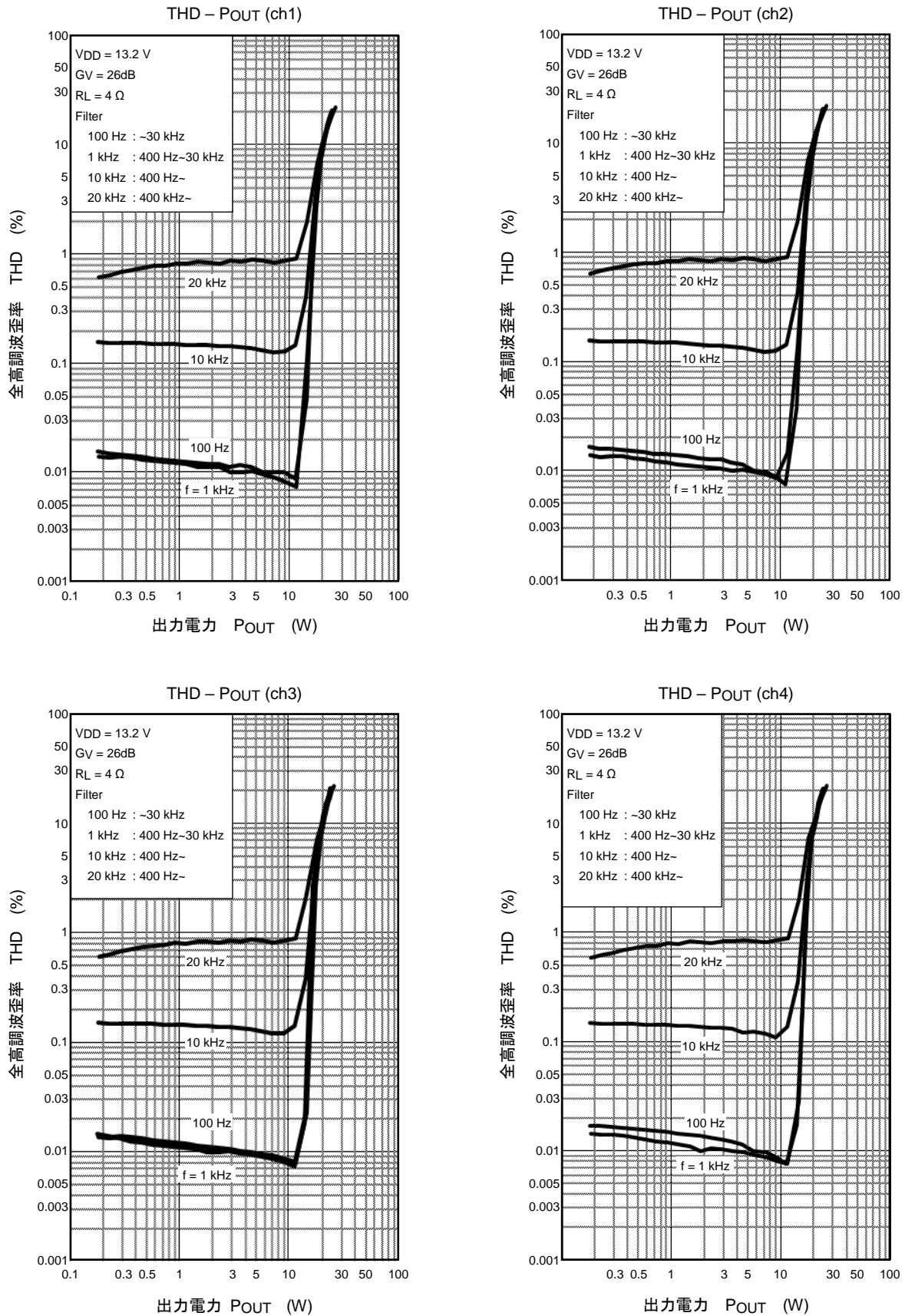


図 13.1 周波数ごとの全高調波歪率 (RL = 4 Ω)

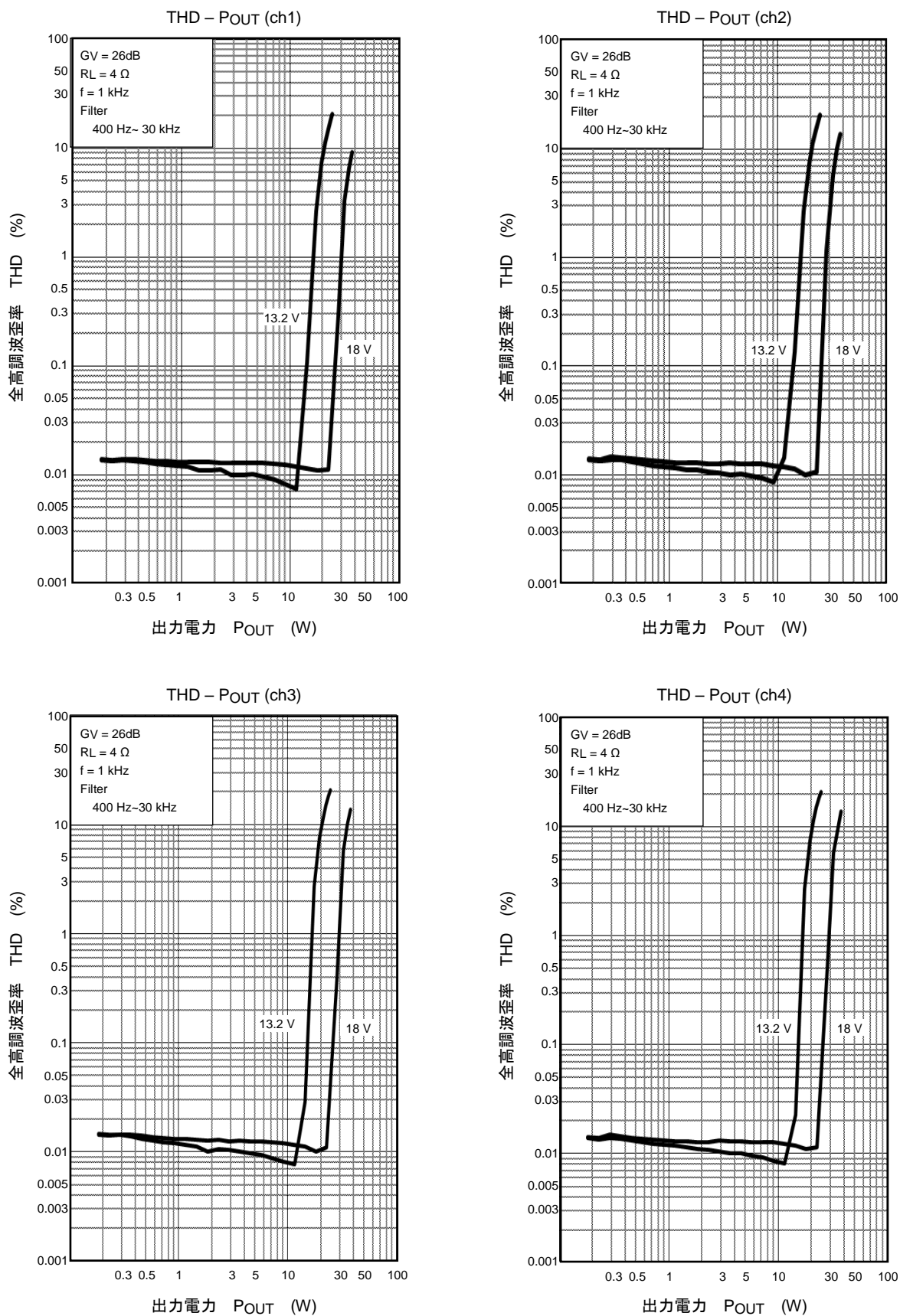


図 13.2 電源電圧による全高調波歪率 (RL = 4 Ω)

13.2 各種周波数特性

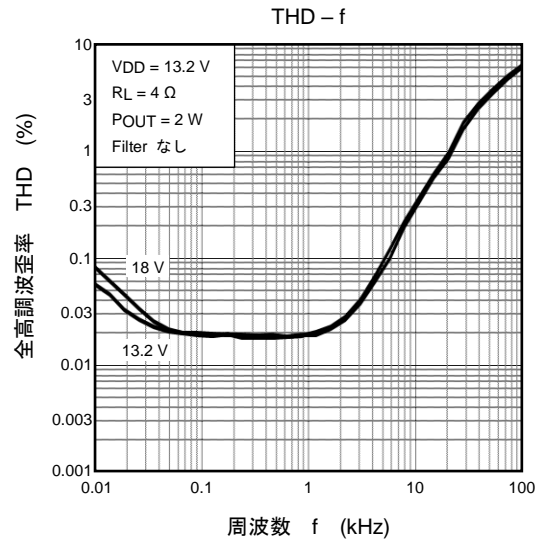


図 13.3 全高調波歪率の周波数特性

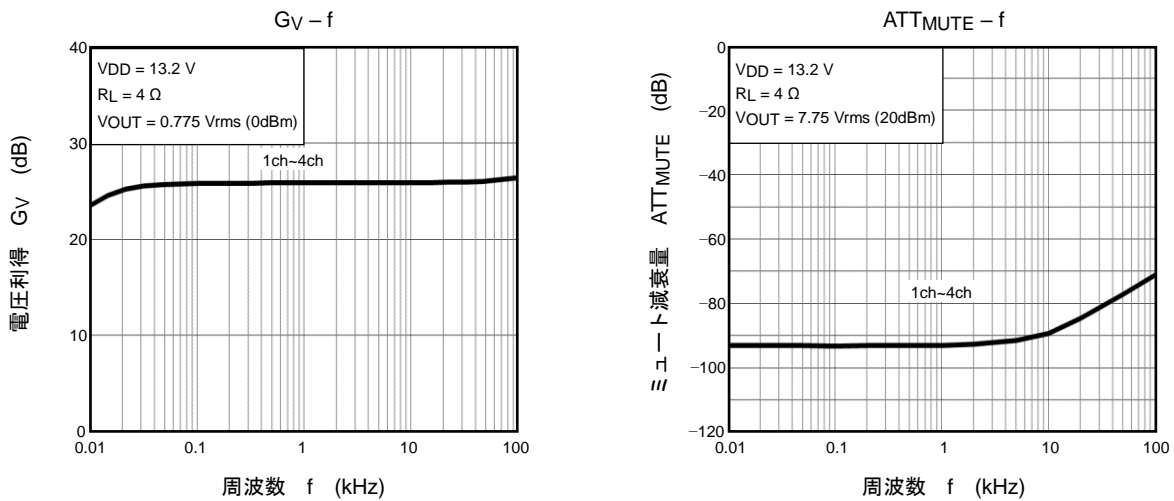


図 13.4 電圧利得、ミュート減衰量の周波数特性

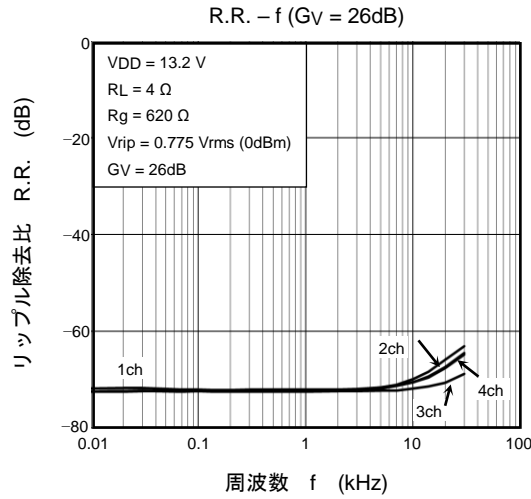


図 13.5 リプル除去比の周波数特性

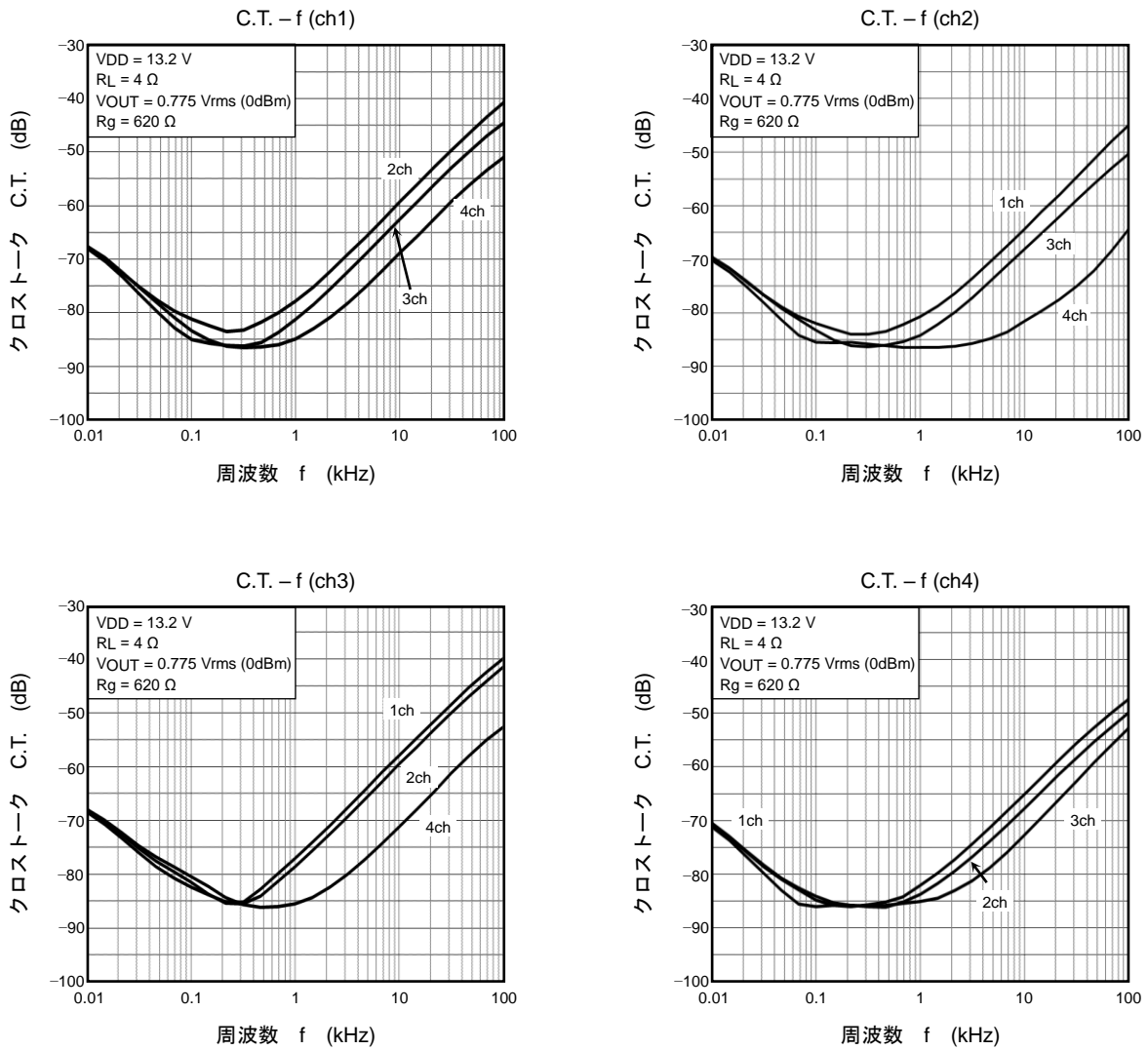


図 13.6 クロストークの周波数特性

## 13.3 入力電圧に対する出力電力特性

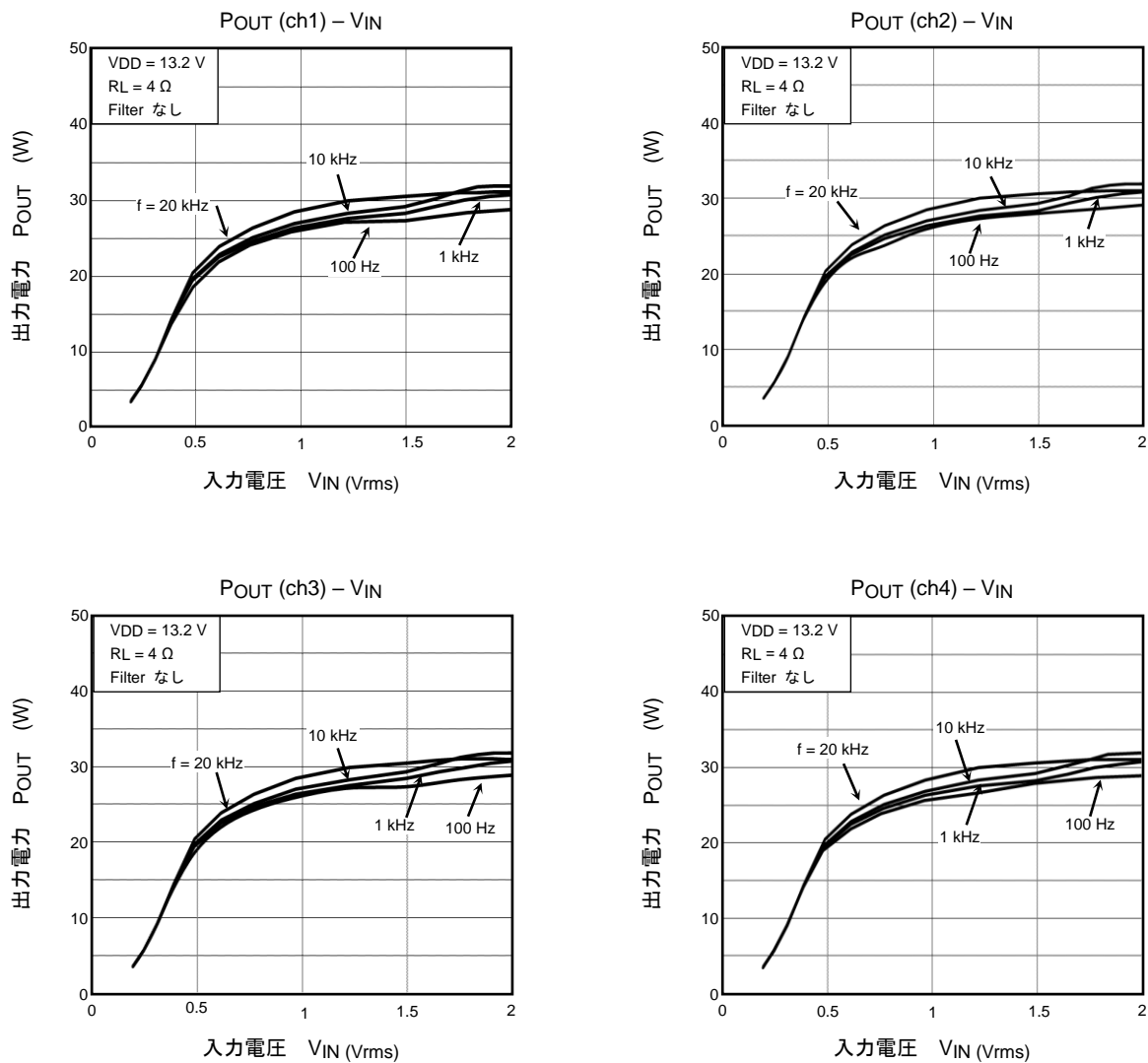


図 13.7 リップル除去比の周波数特性

## 13.4 出力電力に対する消費電力特性

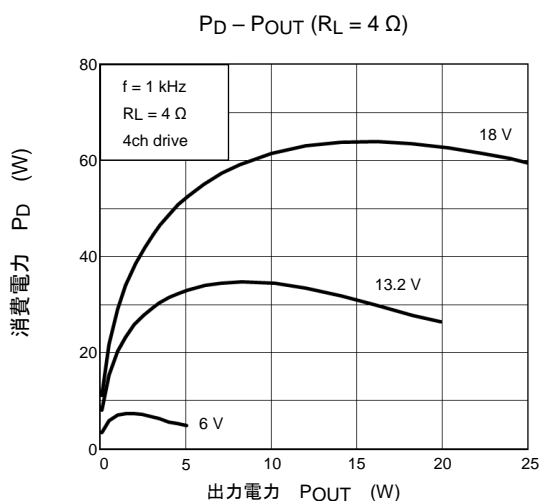


図 13.8 出力電力に対する消費電力特性

## 13.5 その他特性

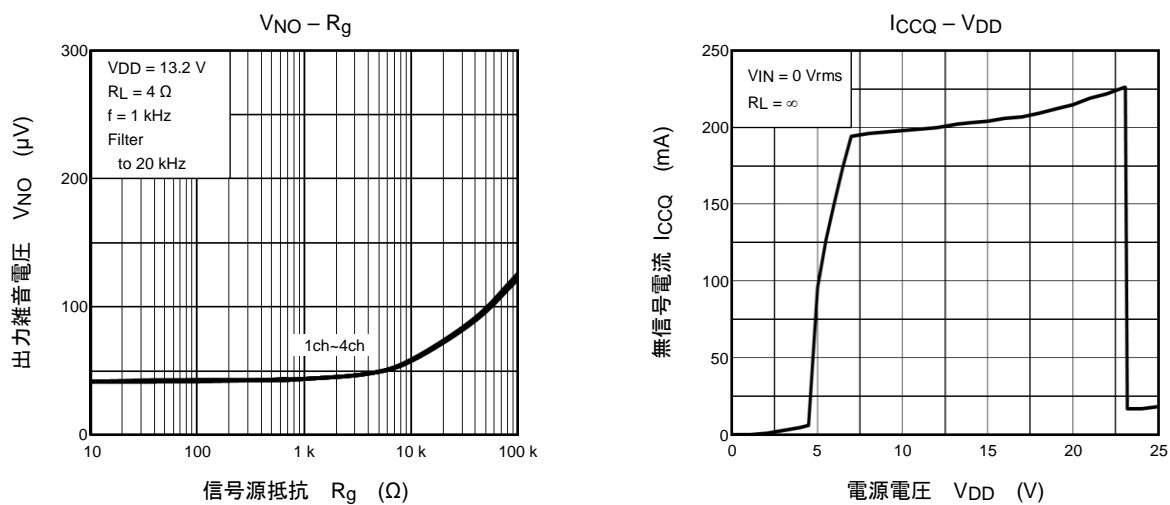
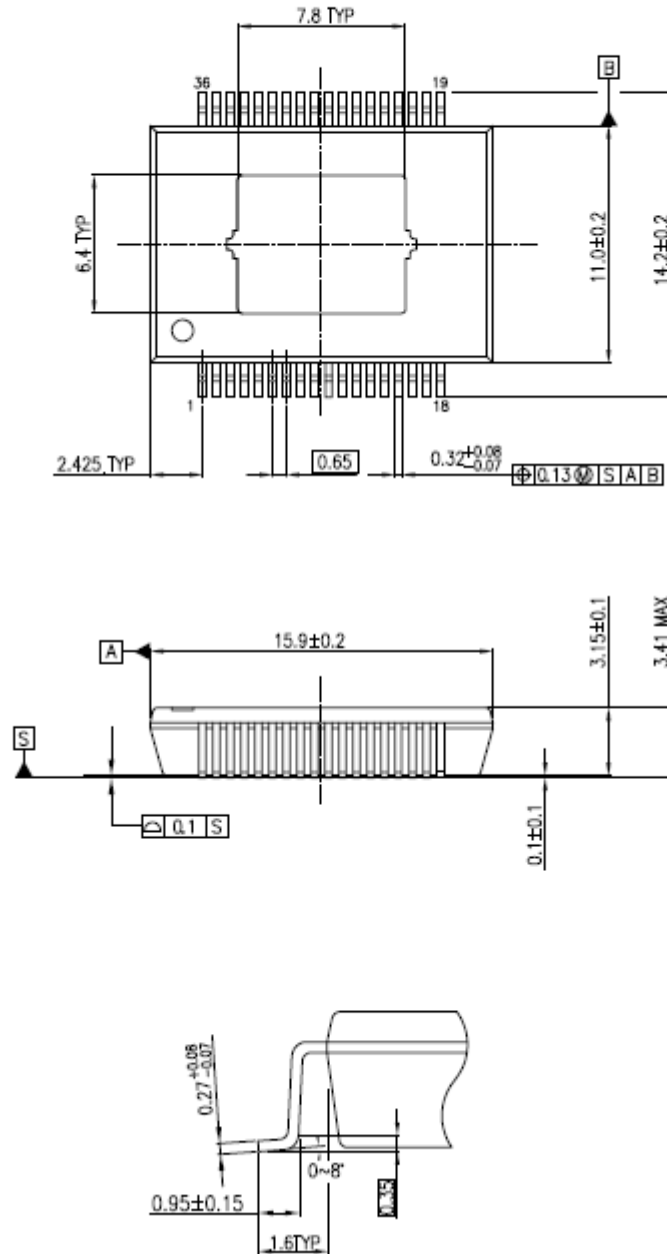


図 13.9 その他特性

## 14. 外形図

P-HSSOP36-1116-0.65-001

"Unit:mm"

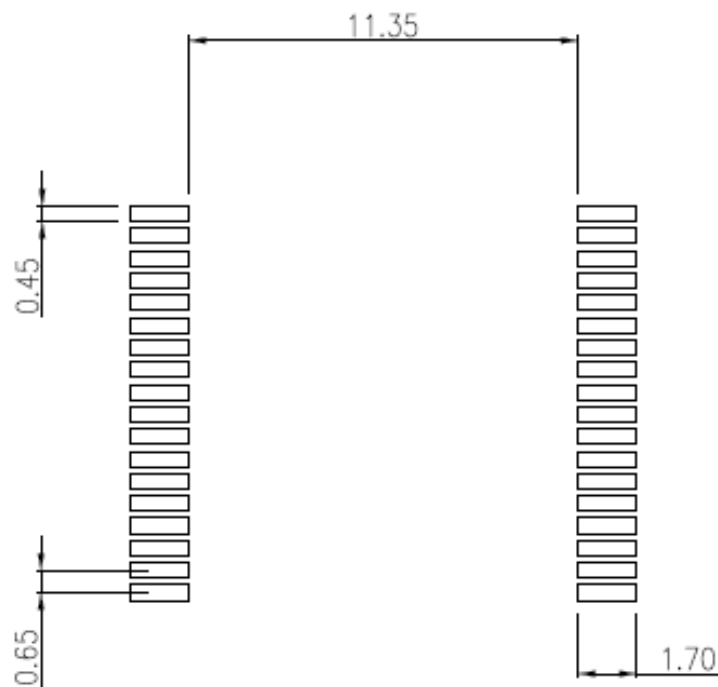


質量: 1.28 g (標準)

## 15. 参考ランドパターン寸法

P-HSSOP36-1116-0.65-001

"Unit: mm"



## 注意

- ・特に表示がない限り、寸法数字の単位はミリメートルです。
- ・本資料は JEITA ET-7501 Level3 に準じた参照用の図です。当社は、図および情報の正確性、完全性に関して一切の保証をいたしません。
- ・お客様にて各種条件(はんだ付け条件など)を十分評価し、お客様の責任において調整を行ってください。
- ・本資料の図は実際の形状や寸法を正確に示すものではありません。図から採寸などで現品の寸法を見積もるなど、その値で設計しないでください。
- ・設計および使用に際しては、本製品に関する最新の情報および本製品が使用される機器の取扱説明書などをご確認の上、これに従ってください。

## 記載内容の留意点

### 1. ブロック図

ブロック図内の機能ブロック/回路/定数などは、機能を説明するため、一部省略・簡略化している場合があります。

### 2. 等価回路

等価回路は、回路を説明するため、一部省略・簡略化している場合があります。

### 3. タイミングチャート

タイミングチャートは機能・動作を説明するため、単純化している場合があります。

### 4. 応用回路例

応用回路例は、参考例であり、量産設計に際しては、十分な評価を行ってください。  
また、工業所有権の使用の許諾を行うものではありません。

### 5. 測定回路図

測定回路内の部品は、特性確認のために使用しているものであり、応用機器の誤動作や故障が発生しないことを保証するものではありません。

### 6. 特性図

本データは参考値であり保証値ではありません。量産設計に際しては、十分な評価を行ってください。

## 使用上のご注意およびお願い事項

### 使用上の注意事項

- (1) 絶対最大定格は複数の定格の、どの1つの値も瞬時たりとも超えてはならない規格です。  
複数の定格のいずれに対しても超えることができません。  
絶対最大定格を超えると破壊、損傷および劣化の原因となり、破裂・燃焼による傷害を負うことがあります。
- (2) 過電流の発生やICの故障の場合に大電流が流れ続けないように、適切な電源ヒューズを使用してください。  
ICは絶対最大定格を超えた使い方、誤った配線、および配線や負荷から誘起される異常パルスノイズなどが原因で破壊することがあり、この結果、ICに大電流が流れ続けることで、発煙・発火に至ることがあります。破壊における大電流の流出入を想定し、影響を最小限にするため、ヒューズの容量や溶断時間、挿入回路位置などの適切な設定が必要となります。
- (3) モータの駆動など、コイルのような誘導性負荷がある場合、ON時の突入電流やOFF時の逆起電力による負極性の電流に起因するデバイスの誤動作あるいは破壊を防止するための保護回路を接続してください。  
ICが破壊した場合、傷害を負ったり発煙・発火に至ることがあります。  
保護機能が内蔵されているICには、安定した電源を使用してください。電源が不安定な場合、保護機能が動作せず、ICが破壊することがあります。ICの破壊により、傷害を負ったり発煙・発火に至ることがあります。
- (4) デバイスの逆差し、差し違い、または電源のプラスとマイナスの逆接続はしないでください。電流や消費電力が絶対最大定格を超え、破壊、損傷および劣化の原因になるだけでなく、破裂・燃焼により傷害を負うことがあります。なお、逆差しおよび差し違いのままに通电したデバイスは使用しないでください。
- (5) パワーアンプおよびレギュレータなどの外部部品（入力および負帰還コンデンサなど）や負荷部品（スピーカなど）の選定は十分に考慮してください。  
入力および負帰還コンデンサなどのリーク電流が大きい場合には、ICの出力DC電圧が大きくなります。この出力電圧を入力耐電圧が低いスピーカに接続すると、過電流の発生やICの故障によりスピーカの発煙・発火に至ることがあります。（IC自体も発煙・発火する場合があります。）特に出力DC電圧を直接スピーカに入力するBTL(Bridge Tied Load)接続方式のICを用いる際は留意が必要です。

## 使用上の留意点

- (1) 過電流保護回路  
過電流制限回路（通常：カレントリミッタ回路）はどのような場合でも IC を保護するわけではありません。動作後は、速やかに過電流状態を解除するようお願いします。  
絶対最大定格を超えた場合など、ご使用方法や状況により、過電流制限回路が正常に動作しなかったり、動作する前に IC が破壊したりすることがあります。また、動作後、長時間過電流が流れ続けた場合、ご使用方法や状況によっては、IC が発熱などにより破壊することがあります。
- (2) 熱遮断回路  
熱遮断回路（通常：サーマルシャットダウン回路）は、どのような場合でも IC を保護するわけではありません。動作後は、速やかに発熱状態を解除するようお願いします。  
絶対最大定格を超えて使用した場合など、ご使用法や状況により、熱遮断回路が正常に動作しなかったり、動作する前に IC が破壊したりすることがあります。
- (3) 放熱設計  
パワーアンプ、レギュレータ、ドライバなどの、大電流が流出入する IC の使用に際しては、適切な放熱を行い、規定接合温度 ( $T_j$ ) 以下になるように設計してください。これらの IC は通常使用時においても、自己発熱をします。IC 放熱設計が不十分な場合、IC の寿命の低下・特性劣化・破壊が発生することがあります。  
また、IC の発熱に伴い、周辺に使用されている部品への影響も考慮して設計してください。
- (4) 逆起電力  
モータを逆転やストップ、急減速を行った場合に、モータの逆起電力の影響でモータからモータ側電源へ電流が流れ込みますので、電源の Sink 能力が小さい場合、IC のモータ側電源端子、出力端子が絶対最大定格以上に上昇する恐れがあります。  
逆起電力によりモータ側電源端子、出力端子が絶対最大定格電圧を超えないように設計してください。

## 製品取り扱い上のお願い

株式会社東芝およびその子会社ならびに関係会社を以下「当社」といいます。

本資料に掲載されているハードウェア、ソフトウェアおよびシステムを以下「本製品」といいます。

- 本製品に関する情報等、本資料の掲載内容は、技術の進歩などにより予告なしに変更されることがあります。
- 文書による当社の事前の承諾なしに本資料の転載複製を禁じます。また、文書による当社の事前の承諾を得て本資料を転載複製する場合でも、記載内容に一切変更を加えたり、削除したりしないでください。
- 当社は品質、信頼性の向上に努めていますが、半導体・ストレージ製品は一般に誤作動または故障する場合があります。本製品をご使用頂く場合は、本製品の誤作動や故障により生命・身体・財産が侵害されることのないように、お客様の責任において、お客様のハードウェア・ソフトウェア・システムに必要な安全設計を行うことをお願いします。なお、設計および使用に際しては、本製品に関する最新の情報（本資料、仕様書、データシート、アプリケーションノート、半導体信頼性ハンドブックなど）および本製品が使用される機器の取扱説明書、操作説明書などをご確認の上、これに従ってください。また、上記資料などに記載の製品データ、図、表などに示す技術的な内容、プログラム、アルゴリズムその他応用回路例などの情報を使用する場合は、お客様の製品単独およびシステム全体で十分に評価し、お客様の責任において適用可否を判断してください。
- 本製品は、特別に高い品質・信頼性が要求され、またはその故障や誤作動が生命・身体に危害を及ぼす恐れ、膨大な財産損害を引き起こす恐れ、もしくは社会に深刻な影響を及ぼす恐れのある機器（以下“特定用途”という）に使用されることは意図されていませんし、保証もされていません。特定用途には原子力関連機器、航空・宇宙機器、医療機器（生命直結機器）、防衛関連機器などが含まれますが、本資料に個別に記載する用途は除きます。特定用途に使用された場合には、当社は一切の責任を負いません。なお、詳細は当社営業窓口まで、または当社 Web サイトのお問い合わせフォームからお問い合わせください。
- 本製品を分解、解析、リバースエンジニアリング、改造、改変、翻案、複製等しないでください。
- 本製品を、国内外の法令、規則及び命令により、製造、使用、販売を禁止されている製品に使用することはできません。
- 本資料に掲載してある技術情報は、製品の代表的動作・応用を説明するためのもので、その使用に際して当社及び第三者の知的財産権その他の権利に対する保証または実施権の許諾を行うものではありません。
- 別途、書面による契約またはお客様と当社が合意した仕様書がない限り、当社は、本製品および技術情報に関して、明示的にも黙示的にも一切の保証（機能動作の保証、商品性の保証、特定目的への合致の保証、情報の正確性の保証、第三者の権利の非侵害保証を含むがこれに限らない。）をしておりません。
- 本製品、または本資料に掲載されている技術情報を、大量破壊兵器の開発等の目的、軍事利用の目的、あるいはその他軍事用途の目的で使用しないでください。また、輸出に際しては、「外国為替及び外国貿易法」、「米国輸出管理規則」等、適用ある輸出関連法令を遵守し、それらの定めるところにより必要な手続を行ってください。
- 本製品の RoHS 適合性など、詳細につきましては製品個別に必ず当社営業窓口までお問い合わせください。本製品のご使用に際しては、特定の物質の含有・使用を規制する RoHS 指令等、適用ある環境関連法令を十分調査の上、かかる法令に適合するようご使用ください。お客様がかかる法令を遵守しないことにより生じた損害に関して、当社は一切の責任を負いかねます。